

青春スクロール

母校群像記

音楽家も続々輩出／語り草の名物仮装



江南では「室内楽アンサンブル」を結成、バイオリンを担当した庄野

平塚江南(以下、江南)卒業生は、芸術界でも活躍する。国立音大^{音大}長を務める庄野進(65、1966年卒)の専門は、音楽の価値を哲学的に考える「音楽美学」。耳慣れない学問を志すきっかけは、生徒会長も務めた兄、庄野安彦東北大名



平塚江南高校 5

誉教授(78、54年卒)の友人前田昭雄(78、54年卒)の存在。後にシューマン^{シューマン}研究で世界的に知られ、ウィーン大名誉教授となる。庄野が中学生の頃、大学生の前田がよく自宅に遊びに来ていて、音楽美学を知った。江南では音楽教師と現代音楽を語り合い、「昼休みが終わったのに気づかないこともあった」ほど。

12月の模試で数学の証明問題に失敗。「東大合格者を減らせない」という教師の説得で、志望先を理系から文系へ転向して東大に合格。音楽美学を専攻し、ヨーロッパの14世紀の楽譜の研究に熱中することになる。



コンサート準備に忙しい岩崎

国立音大で学び、教授になったソプラノ歌手岩崎由紀子(68、

63年卒)。二期会などのオペラで活躍した岩崎は戦後の何もない時代、紙で作った鍵盤で練習する音楽好きの少女だった。江南で合唱部顧問に歌をほめられ声楽の道へ。「多くの恩師や同窓生がコンサートに来てくれ、行事に呼んで育ててくれた」。地元で音楽文化を根付かせたいと平塚音楽家協会を立ち上げ、2008年には市民オペラ「カールメン」を成功させた。

オランダ在住のジャズピアニストで今年来日公演も果たした小橋敦子(59、73年卒)は率先して人前に立つタイプではなく、体育祭、文化祭などあらゆることに情熱を向ける、友人たちの行動力を驚きの目で見ていた。



江南では新聞部。翻訳やジャズ批評も手がける小橋＝内藤雅光氏撮影

岩崎が企画構成する平塚音楽家協会のコンサートは、来年1月19日午後2時から、平塚中央公民館大ホール。問い合わせは事務局(岩井さん0463・33・6573)。小橋の演奏は、オランダ人ベーシストとのデュオのアルバム「アムステル・モーメンツ」(2009年)、最新作「ワルツ・フォー・デビュー」(2013年)などで。



演出中の福田＝江川誠志氏撮影

だ。当の福田はあまり印象がなく、70⁺の荷物を背負い、校舎の階段を上り下りした山岳部の練習が鮮明だという。